

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第5回（平成17年度第4回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成17年12月26日（月）15：00～16：30
開催場所	吉田福祉センター
出席者 （委員） （市職員）	委員12名、市職員6名 宮廻会長、津曲副会長、西園委員、萩原委員、今別府委員、四元委員、槐島委員 岩元委員、岡本委員、中迎委員、永山委員、新地委員 宇治野企画部参事、中園企画調整課主幹、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部企画調整課
会次第	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告</p> <p>（1）第4回（平成17年度第2回）地域まちづくり会議における意見等の検討状況について（全市的な事項）</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局から、第4回（平成17年度第2回）地域まちづくり会議における意見等の検討状況について（全市的な事項）説明</p> <p>（2）第5回（平成17年度第3回）地域まちづくり会議について</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局から、第5回（平成17年度第3回）地域まちづくり会議について説明</p> <p style="padding-left: 2em;">委員から、日曜当番医のあり方についての意見は、合併の前後で医師会の対応が異なっており、市域の拡大に伴う日曜当番医制度の充実について市としても医師会に働きかけてほしいという趣旨である旨の補足説明あり。</p> <p>（3）第四次鹿児島市総合計画実施計画（平成18年度～平成20年度）について</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局から、第四次鹿児島市総合計画実施計画（平成18年度～平成20年度）について説明</p> <p style="padding-left: 2em;">会長から、第5編第4章の「地域特性を生かした農林水産業を振興する」の分野において新規事業はないのか質問あり。</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局から、当該分野においては、「遊休農地解消等対策の推進」、「地域特産物の生産振興」が平成17年度から新規事業としてすでにおこなわれており、新規事業として位置付けていないとの説明あり。</p> <p style="padding-left: 2em;">委員から、農業を力としてとらえ、農林水産を戦うために、戦力・戦術・戦略がなければいけない。「ブランド鹿児島」として、農林水産業の戦略を構築すべき。戦力を作るための仕掛け・実施施策は多く見られるが、売って収益をあげる戦術を考えないといけないのではないか。今後、農林水産物をどう中心市街地、市外、県外に売っていくかを追求すべきとの発言あり。</p> <p style="padding-left: 2em;">委員から、現在の鹿児島市の組織では、農林水産業に限らず、戦略をしっかり構築し、戦力を総合的に磨き戦術を構築するという面が弱いのではない</p>

か。今後組織の見直しを行う際には、産業振興局や企業局等、戦略を練って北九州、関東、関西に売る、あるいは、鹿児島市中心部において評判になるようなブランドとして確立して外に持っていく、パイロットショップを作るなど、しっかり戦術をつくることのできるセクションを組織の中につくってほしいとの発言あり。

会長から、産業構造のバランスは重要であり、第1次産業については補強していく良い機会となっている。第1次産業があるから第2次産業があるということでビジネスチャンスが生まれることもあり、ビジネスチャンスを形にしていくことは重要な合併効果の生かし方であるとの発言あり。

委員から、青森市長が今年2度来鹿し、合併した隣町の産品であるりんごの鹿児島での販売が決定したということであった。総合的な戦術として合併を機に何を全国に売りこむか。戦術の一つとして鹿児島でりんごを売る、鹿児島に青森市長がくれば必ずニュースになるということを考えてようである。鹿児島のさつまいもを青森で売る、あるいは5町の特産品の中で今年はこれを人気商品にしよう、来年はこれをエースにしようという戦術を駆使して売っていくという、そういうことを考えるセクションがないと地域間競争に勝ち抜いていけないとの発言あり。

会長から、新市の一体化や一体感という言葉があるが、市長が旧地域の特産品を率先してセールスしてくれて、ある程度売上につながっていくことで、実感として合併の一体感を醸成するとの発言あり。

委員から、実施計画では今後3年間の計画について大まかなくくりで掲載しているため、農業や観光の戦略について見えづらいところがあるが、現在作成している観光未来戦略や新しい農業プランの中で良いものが見えてくると思うとの発言あり。

委員から、実施計画の事業費の裏付けとなる財政計画について、例えば桜島白浜温泉やマリンピア喜入の施設整備が何年度にどのくらいの事業費で予定されているのか教えてほしいとの発言あり。

事務局から具体的には予算編成の段階で決定されるため、今の段階で明確に何年度にいくらの事業実施というところまでは申し上げられないとの説明あり。

委員から、「地域子育て支援センター事業の拡充」について、働く人たちの子どもだけが対象となるのか、地域で子どもを育てましようということなのか、内容について教えてほしいとの発言あり。

事務局から、地域子育て支援センターとは、保育所に子育て支援活動を行う職員を配置して、子育て家庭等に対する育児不安等についての相談指導、子育てサークル等への支援を行うものであるとの説明あり。

委員から、地域で子どもを育てる受け皿づくりのための人材育成について行政でできることがあるのではとの発言あり。

(1) 合併後の本市のまちづくりについて

委員から、ビニールハウスや温室への補助など、旧吉田町時代に行っていたものが今後どうなるのか心配であるとの発言あり。

委員から、吉田小学校の移転改築について早期実施をお願いしたいとの発言あり。

委員から、郡山地域まちづくり会議では総合計画の大きな柱に沿って毎回テーマを設けて会議を進めている。委員の方々がどの時点でどのような意見を出せばよいのかわかるように、まちづくり会議でも年間の大きなテーマについて柱を立てて開催してはどうかとの発言あり。

会長から、これまでどのような議論をしたのか、どこまでできているのかということフィードバックしてとりまとめることが必要だろうとの発言あり。

委員から、各地域まちづくり会議で出された意見の状況については、各地域まちづくり会議で情報を共有しているのかとの発言あり。

委員（地域まちづくり会長）から、情報は共有されている旨説明あり。

会長から、「全市的な事項」について、全市に共通していることが「全市的」で特定の地域に関連しているものは、そうではないとするのではなく、個々の地域に関連しているが、鹿児島市の発展ということを考えて「全市的」な事項と判断することが必要になるとの発言あり。

委員から、資料の作成について、意見等の分類欄の「各地域に係る事項」や検討状況の分類欄の「既に施策に盛り込み済みのもの」とされている部分で認識がずれている箇所が見られるとの発言あり。

会長から、個々の地域に関連するが鹿児島市として大事な事項だと判断するために、総合計画や実施計画の大きな柱と関連させていくべきだと思う。今までは地域の問題として処理していたものも全市的に議論すべきものがないかという視点で見直していく必要があるのではないかととの発言あり。具体的に例をあげて示してほしいとの発言あり。

委員から、例えば資料2ページの6「貸し農園」に関する事項について、農家と農家の話をしているわけではなく、旧鹿児島市の人も農地を利用して地域の高齢者がもっているノウハウを利用してみたいという意味で取り次ぎをするセクションが必要ではないかという意見であった。経済局の検討状況は市民農園の設置について「検討中」とあるのに検討状況の分類は「既に盛り込み済みのもの」とある。各地域の議論とまちづくり会議での議論のリンクのさせ方を工夫してほしいとの発言あり。

(2) 今後の会議の進め方について

事務局から、地域まちづくり会議の状況等も報告し、今後の会議の進め方について協議していただきたい説明。

協議の結果、これまでどおり旧5町域の視察を続けることとし、テーマを設けて協議するなど具体的な進め方については、18年度第1回の会議で協

議を行うこと、また、地域まちづくり会議と同様にこれまでの議論の経過を踏まえ、一定の整理を行うこととし、とりまとめにあたっては正副会長等で原案を作成し、次回会議で協議を行う取扱いとすることを確認。

4 その他

事務局から、次回会議は3月頃の開催を予定しているとの説明。

5 閉 会